

---

# 真・恋姫†萌将伝 ～群雄割拠再び？～

イルカ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

真・恋姫†萌将伝 ～群雄割拠再び？～

### 【Nコード】

N9281X

### 【作者名】

イルカ

### 【あらすじ】

萌将伝の記憶を持った恋姫達が、原作開始前にタイムスリップ！！

群雄割拠を乗り越え、大陸に平和を齎した恋姫達。二度目の荒廃した世界をどう生きるのか？

群雄割拠は再び起こるのか？

仲良くなった者達に刃を向ける事ができるのか？

そして、北郷一刀は…その内出ます。

## 序章、閉じた外史、生まれた外史

後漢王朝末期

三国時代と呼ばれる群雄割拠の時代

それぞれの理想、野望、想いを胸に戦い抜き

世界に平和を齎した英傑達。

その傍には常に、管輅の予言通り、天の御遣い・北郷一刀がいた。

『荒廃せし世を導く者あり

その者、流星と共に現れ

世に平和を齎す。

即ち、天の御遣い也。』

英傑の数だけ天の御遣いが遣わされ、その数だけ広がった世界。ある者はこれをパラレルワールドと言い、ある者は外史と呼ぶ。そして、この外史

英傑達はそれぞれの外史で乱世に平和を齎した。

戦後処理政策として北郷一刀を御旗とした三国連合を発足。

『三国連合の御旗、天の御遣い・北郷一刀』

この事柄が世界に与えた影響が強過ぎ、北郷一刀を触媒として外史が引き寄せ合い、繋がり、混ざり、融合し、矯正され、やがてひとつの世界として、統一された。

『天の御遣い、一人の想いの為に力を振るう

一人の思い叶いし時、始まりは終わりへと至る』

この統一された世界も、他の外史と同じ様に、時が経てば消えゆく

定めであった。

しかし、外史の融合の結果、取り込んだ外史分だけ世界の寿命を伸ばした。

更には、融合していない外史までも、北郷一刀を触媒として吸収しはじめた。

が、遂にこの三国連合の世界も、寿命が尽き、終焉を迎える。

が、全ての消滅を逃れるかのように、吸収されかけた外史に英雄達の想いと記憶が混ざり、新たな外史として誕生した。

その外史の扉が、いま開かれる。

# 1、それぞれの始まり（前書き）

それぞれのお話。

時系列はバラバラです。

## 1、それぞれの始まり

／冥琳

はあく、やっぱりこうなってしまうか。

「雪蓮、もうこの辺でいいだろう？」

「何言ってるの？これからが本番じゃない」

そう言っつて、美羽：袁術に向かつて黒い笑いを浮かべる孫呉の王。と言っつても、今の身分は美羽の客将。

「美羽？今度はね、前みたいな事はしたくないな、思ってるのよね？」

「しえ、雪蓮：わ、妾も、もう怖い思いはしたくないのじゃ。政務室の隅でガタガタと震えている美羽。」

「おい、雪蓮。この辺で止めておけ。泣いてるではないか」

七乃と抱き合いながら目に涙を溜めている。その目が一瞬、私を見て、

「わ、妾は、な、泣いてなぞおらぬぞ！」  
と精一杯、虚勢を張る。

「ふん…：そっかそっか。前は泣いてたのに強くなったじゃない。それで、そんな美羽ちゃんはこれからどうしたいのかな？」

前回の事を思い出したのか「ひっ」と息を飲む美羽と七乃。

「わ、妾は…：妾は…：そ、そうじゃ！妾はこれから七乃と一緒に、主様を探しに行くのじゃ！今決めたのじゃ！！だからこんな城はぬしにくれてやるのじゃ！！」

わっはっは、参ったか！と、笑う美羽。

あっはっは、さっすが美羽！と、笑う雪蓮。

こんな脅しで手には入るぐらいなら、前回あれ程まで苦労する事はなかったのではないか。

二人の笑いが響く部屋で、そんな事を思った。

／白蓮

街に出ると懐かしい顔が揃っていた。

「伯珪様、おはようございます」

「お、太守の嬢ちゃん、今日もいい天気です〜ね」

一人一人に挨拶をして歩く。

昔懐かしい光景に、少し涙

が滲んだのは内緒だ。

「たいしゆさま？ないてるの？どつか、いたいの？いたいいた

いしてあげようか？」

……内緒だ。

つて、こんなに小さな子に見られたんじゃ仕方ないな。

「あ、もう大丈夫。目にゴミが入っただけなんだ。ありがとう

うな」

そう誤魔化して、少女の頭を撫でる。

「あらあら、太守様すみません。珪歌ちゃん、太守様にありが

とうは？」

「んー？たいしゆさまありがとう」

首を傾げてから、そう言ってニカツと笑う少女。

なぜ私がまたここに居るのか。一体何があったのか。なんて私

が考えたって分かる筈はない。だけど、ひとつだけ分かる事がある。

今度は、今度こそは絶対にこの幽州を守り抜く！

少女の笑顔を見て、決意を新たにした。

／蒲公英

「母上っ！……！」

おねーさまがそう言って、おば様に駆け寄った。

「こら、翠。いきなり抱き付いて来てどうしたと言うのだ」

そう言ったおば様の言葉もおねーさまには聞こえないのか、母上！  
母上！と泣きながら抱き付いている。

困った顔で蒲公英を見るおば様。

「何があつたのか分からないけど…蒲公英も同じみたいね」

こつちへいらっしやい。

笑顔でそう言つて、手招きをするおば様。だから蒲公英は、

「おば様…おばさま…うわあ〜ん！…っ」

泣きながら抱き付いちゃつて。

蒲公英にはお母様がないけど、おば様がお母様みたいだから、

「おばさま…おばさま…おかーさま…うわあ〜んっ

」

つて、いつの間にか、おかー様おかー様つて叫んじゃつてて、  
泣き疲れて、眠つたつて。

後でおば様が笑いながら言つてた。

／真桜

凧が大変な事になつとる。

もう三日も魂が抜けたような感じや。まー気持ちは分からんでも  
ないけど。

「なー沙和、このままやったら、凧が使いもんにならなくなるん  
とちやうか？」

「うーん…沙和もそう思うのー」

「せやけどなー…隊長、今何処におるんか分からんしなー」

三日前、気が付いたら昔の家で寝とつた。

今までの事が夢だつたんかなー思つとつたら「凧ちゃんが大変な  
のー」と沙和が駆け込んで来てな。そのまま連凧の家まで連れて行  
かれたんや。

凧の家に着いたら、凧の奴「隊長…隊長…」と連呼しながらフラ  
フラと彷徨つてたんや。

「こりゃーあかんと思って色々話したんやけどな？耳から耳へと抜けとった。」

心ここに在らずや。

「隊長、華琳様のところに居るんやるか？」

と、沙和に聞く。

「そんなの沙和にはわからないの。でもこのままここにいても隊長にはきつと沙和達を探せないと思うの。だから、沙和達が見つけないとダメだと思うの。」

おおー？こりゃ意外や。沙和の奴もちゃんと考えとるやん。

まー、隊長の事だからやろうけどな。

「せやな。待つとつたっていつになるのか分からのやし。なら、こちらが探さなあかん。」

「そうなのそうなの！それに、うまくいけば隊長の事独占できるかもなのー」

「おおお！？それは盲点やった！！でかした沙和！ほんま冴えとるやんか！」

思わず沙和を抱き締めようとした時、

「隊長を独占だとおー！！！！！！！！！！」

凧が突然雄叫びを上げた。

「沙和！真桜！そうと決まればこうしてはおれん！すぐに隊長を探しに行くぞ！！！！！！！！！！」

「凄いの凧ちゃん！復活したのなのー！！」

「めちやくちや元気やないか…さすがうちらの隊長や」

沙和と二人で、なんや騒いどる凧を見て思わずつぶやいた。  
こうしてうちの旅は始まったんや。

## 1、それぞれの始まり（後書き）

次回も、短めの個人パートになります。

文章の始めに一文字分空けるか空けないか迷っています。  
アドバイスをありましたらお願いします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9281x/>

---

真・恋姫†萌将伝 ～群雄割拠再び？～

2011年10月26日03時01分発行